

鉄道建設・運輸施設整備支援機構サステナビリティボンド の購入について(令和6年5月30日)

千代田区では、令和6年5月30日、基金の運用を通じてSDGsへの寄与、社会貢献につなげていくため、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構が発行するサステナビリティボンドを購入しました。

SDGs（持続的な開発目標）は、国連が提唱したよりよい社会の実現を図る世界共通の目標で、社会、経済、環境の面から17の目標が定められています。

SDGs債は、これらの目標の実現のためのプロジェクトに資金が活用されるもので、サステナビリティボンドは、環境改善及び社会的課題解決を目標としています。

鉄道建設・運輸施設整備支援機構は、鉄道・船舶による交通ネットワークの整備・支援を行う政府全額出資の独立行政法人です。同機構のサステナビリティボンドは、新幹線や、都市鉄道等の建設、船舶の建造に資金を活用し、交通網の整備による利便性の向上と、これらの交通手段の活用によるCO2排出量の抑制を目指します。

SDGsの目標では、「目標3:すべての人に健康と福祉を」、「目標7:エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「目標8:働きがいも経済成長も」、「目標9:産業と技術革新の基盤をつくろう」、「目標11:住み続けられるまちづくりを」、「目標12:つくる責任、つかう責任」、「目標13:気候変動に具体的な対策を」、「目標14:海の豊かさを守ろう」、「目標15:陸の豊かさを守ろう」など多岐にわたる課題解決を目的としています。また、その目指す成果は、区の環境施策、交通施策、地域活性化施策をはじめ、多くの事業との趣旨と合致します。

本債券は、DNV(国際的な第三者評価機関)から、サステナビリティボンドに係る各種基準、ガイドラインへの適合について検証と評価を受けるとともに、CBI(低炭素経済に向けた大規模投資を促進する国際NGO)から、環境改善効果についてプログラム認証を取得しています。

鉄道建設・運輸施設整備支援機構サステナビリティボンドの購入は、令和5年5月に続き、合計2回目となります。千代田区は、今後も鉄道建設・運輸施設整備支援機構サステナビリティボンドをはじめ、SDGs債への投資で基金の一部が活用されることにより、SDGsの実現を目指していきます。